

# 変だな

## 動物プランクトン

ここニ、三年、冬の霞ケ浦北浦の動物プランクトンに、少し変わった現象がみられるようになりました。

今まで、冬の動物プランクトンの代表的なものにはケンミジンコで(右図)



ケンミジンコ

このケンミジンコとその子供(幼生)、そしてワムシが

この時期 普通にみられる種類でした。

しかし、ニ、三年前からミジンコが増え始め、この冬の十二月や一月には、動物プランクトンの大部分を占めるようになりました。



ミジンコ

このミジンコは、春にコイの子供を作るために用意する 施肥池に、タマミジンコと一緒に、極く普通にでてくる種類です。

このミジンコが、なぜ増え始めてきたのかは

分りませんが、これが三月四月にかけても多いような場合には、ちよつと具合の悪いことになりそうです。

それは、三月から四月にかけては、ワカサギやシラウオの卵がふ化する時期で、ミジンコの子供は大き過ぎて、これらの稚魚の餌としては適当でないからです。

ワカサギやシラウオの稚魚の餌は、稚魚の口の大きさに決まっています。一番良い餌はワムシで、ケンミジンコの子供は、まあ、くといつとこころです。ケンミジンコの子供は、卵からふ化した時は、親



ケンミジンコの子供(幼生)

とは似ても似つかない形をしていて、変態を繰り返して親と同じ形になります。

しかし、ミジンコでは生み出された卵が、親の体の中(育苗)で発生し、変態を終えて、ふ化した後も独りで遊ぎまわれるまで育つてから、体外へ出てきます。したがって、親の体から出てきた時には、かなり大きくなっている。ケンミジンコの子供の、約二倍の大きさになっています。ミジンコの今後の動向が気になります。